

高岡商工会議所地域経済動向調査

(令和5年度 第1四半期・令和5年4月～令和5年6月)

2023/7/27

ポイント

- ◆ 売上高対前年同期比は全産業で前期比6.4ポイント下落しー4.3ポイント
サービス業を除く4業種で下落
- ◆ 採算性対前年同期比は全産業で前期比0.9ポイント上昇しー22.7ポイント
建設・卸売業で下落し、製造・小売・サービス業で上昇
- ◆ 材料、原材料、仕入単価、人件費・人件費以外の経費の上昇が経営課題のトップ
従業員の確保難も建設・製造・卸売業で上位にあげられる

□ 採算性で改善が見られるものの、従業員の不足傾向が続くなど不確実性はみられる

売上高対前年同期比(全産業)は、-4.3と前回調査(2.1)から、6.4ポイント下落した(表1)。産業別で見ると、建設・製造・卸売業・小売業で下落しており、特に小売業(26.7ポイント下落)での減少が目立つ。また、サービス業は横這いとなった。

来期の売上高見通し(グラフ2-2)は、減少との回答が2.9ポイント下落した。増加・不変の合計が69.0%となり、前回調査から2.8ポイント上昇し、来期見通しに前向きな経営者が増えた。

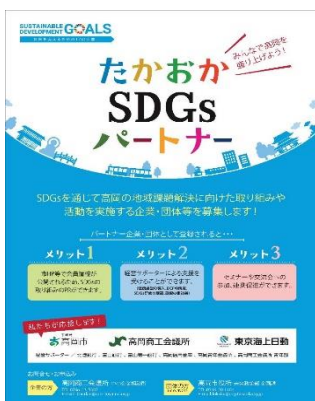
採算性(表3)は全産業で-22.7となり前回調査から0.9ポイント上昇した。製造・小売・サービス業で改善がみられた。

従業員水準(グラフ5 表5)は卸売業を除く産業で、不足傾向(0を下回る)となった。全産業で見ると-18.8となり、以前従業員の不足傾向は続いている。

直面する経営課題では、材料、原材料、仕入単価、人件費・人件費以外の経費の上昇が全産業でトップとなったほか、建設・製造・卸売業では従業員の確保難も上位にあげられた。

SDGs に対する関心が高まっている。この背景には、企業価値の決定要因の重点が財務情報から、SDGs への各企業の取り組みなどの非財務情報へと移行したことがある。また、大手機関投資家がSDGs への資金供給を通して社会課題の解決に積極的に参画する動きが明確になってきた。例えば、世界最大の資産運用会社の米ブラックロックは、2020年4月、SDGsの169個のターゲットに焦点を当てた新しいファンドを立ち上げている。こうした中においてSDGsを「チャンス」と捉え、事業を持続的に発展させる取り組みと位置付けて、前向きに取り組むことが重要となっているのではないだろうか。

高岡市では「高岡を持続可能なまちにしたい」という思いから集まった、市内の企業・経済団体、地域金融機関、行政により組織された「たかおかSDGsサポーター」が話し合いを重ね、より多くの仲間を集めるために、「たかおかSDGsパートナー」制度の登録が開始されている。SDGsに取り組みやすすめるため、普及啓発やパートナーへの支援メニューの提供などに官民で連携して取り組んでおり、興味のある事業者は登録を検討いただきたい。



お問合せ・申請窓口

▶企業の方

高岡商工会議所中小企業相談所

TEL:0766-23-5007

MAIL:soudan@ccis-toyama.or.jp

▶団体(NPO、学校等)の方

高岡市未来政策部企画課

TEL:0766-20-1101

MAIL:kikaku@city.takaoka.lg.jp

高岡商工会議所地域経済動向調査

(令和5年度 第1四半期・令和5年4月～令和5年6月)

調査月 令和5年4月～令和5年6月 (基準日6月1日)

対 象 高岡市内事業所 330社

回答数 141社 (回収率 42.7%)

回答業種内訳及び構成比

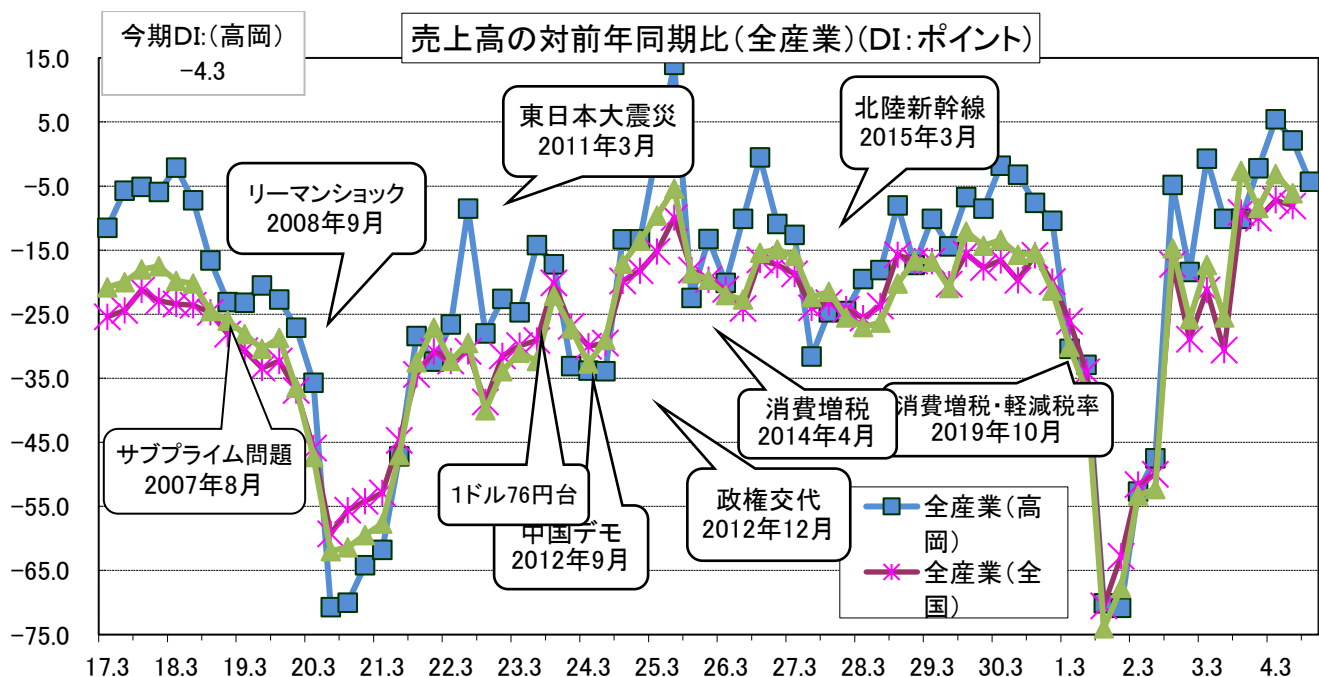
	建設	製造	卸売	小売	サービス	全体
回答数	13社	67社	24社	19社	18社	141社
%	9.2%	47.5%	17.0%	13.5%	12.8%	100.0%

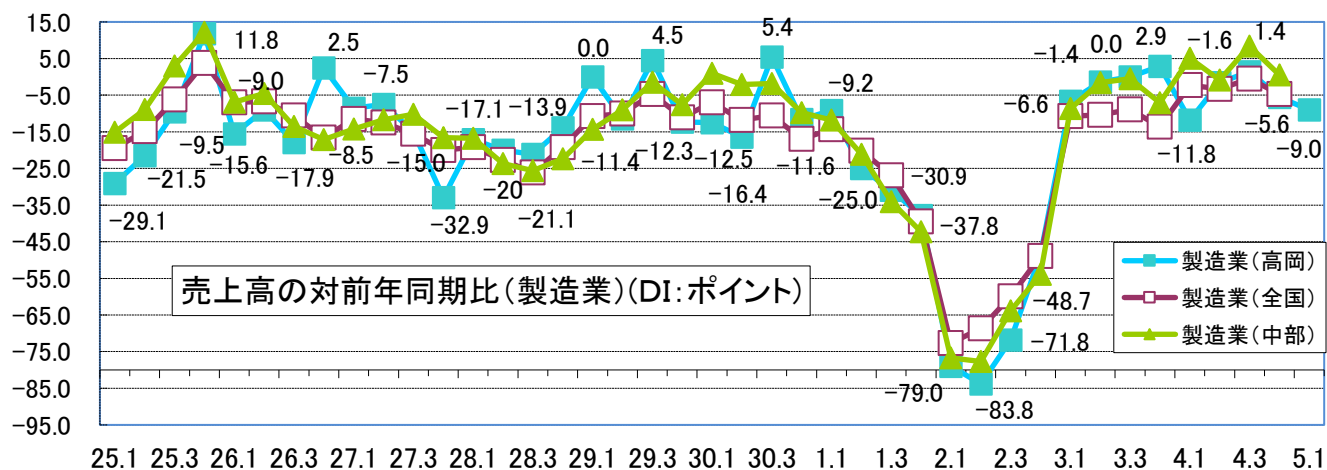
■1.売上高の対前年同期比

(%) (ポイント)

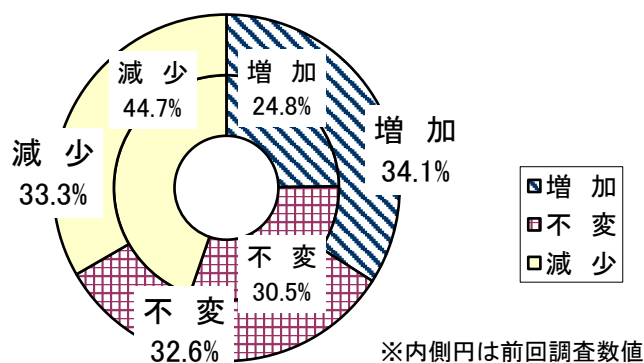
※全国、中部DIは前回調査分

		増 加	不 変	減 少	DI	前回DI	変 化	全国DI
業	建設業	7.7	69.2	23.1	-15.4	-7.1	-8.3	-16.8
	総合・土木	12.5	75.0	12.5	0.0	0.0	0.0	-
	建築・職別工事	0.0	60.0	40.0	-40.0	-20.0	-20.0	-
	製造業	37.3	16.4	46.3	-9.0	-5.6	-3.4	-4.7
	銅器・漆器	41.7	8.3	50.0	-8.3	-7.1	-1.2	-
	アルミ・機械・化学・電気	33.3	19.4	47.2	-13.9	0.0	-13.9	-
	食品・繊維・紙・他	47.1	17.6	35.3	11.8	-6.3	18.1	-
種	卸売業	29.2	25.0	41.7	-12.5	-8.3	-4.2	0.8
	銅器・漆器	25.0	0.0	50.0	-25.0	0.0	-25.0	-
	その他	31.6	31.6	36.8	-5.3	-10.5	5.2	-
	小売業	36.8	21.1	42.1	-5.3	21.4	-26.7	-19.4
	食品・衣料・雑貨	57.1	28.6	14.3	42.9	60.0	-17.1	-
	電化製品・文化品・他	25.0	16.7	58.3	-33.3	0.0	-33.3	-
	サービス業	44.4	44.4	11.1	33.3	33.3	0.0	-0.4
	全産業	34.3	27.1	38.6	-4.3	2.1	-6.4	-8.1

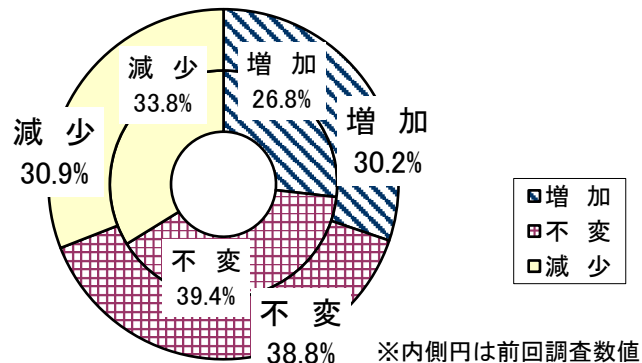




■ 2-1. 売上高の対前期比



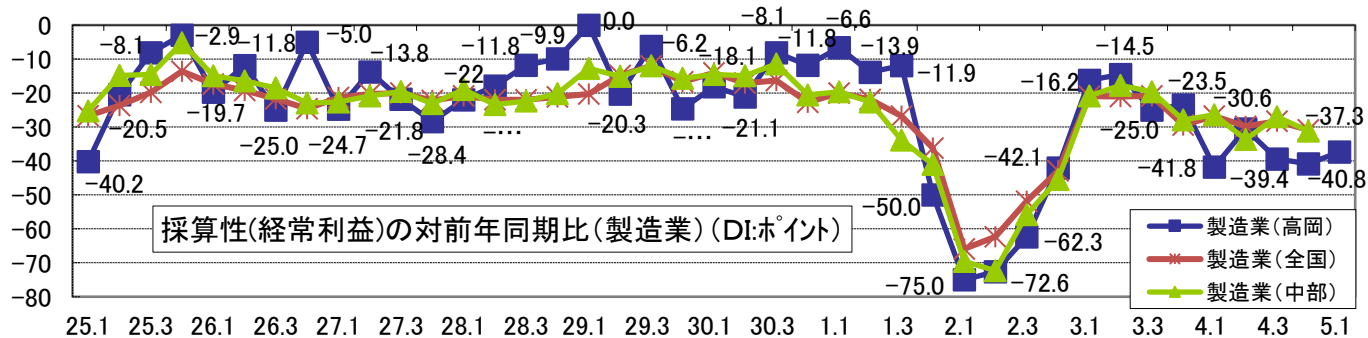
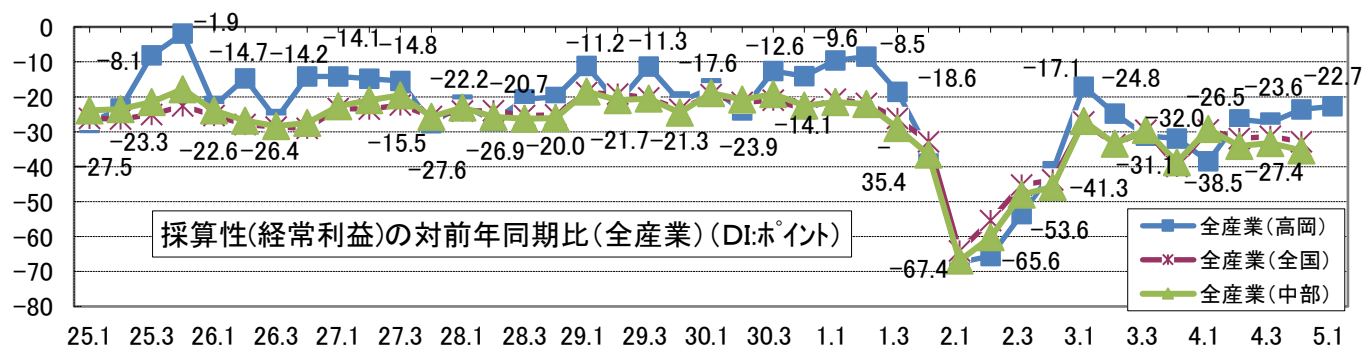
■ 2-2. 売上高の来期見通し(対前年同期比)



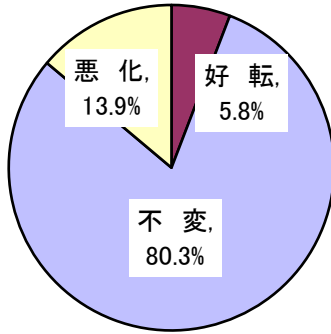
■ 3. 採算性(経常利益)の対前年同期比(%) (ポイント)

※全国DIは前回調査分

		好転	不変	悪化	DI	前回DI	変化	全国DI
業種	建設業	15.4	46.2	38.5	-23.1	-7.1	-16.0	-35.2
	製造業	14.9	32.8	52.2	-37.3	-40.8	3.5	-30.8
	卸売業	16.7	54.2	29.2	-12.5	0.0	-12.5	-22.5
	小売業	21.1	42.1	36.8	-15.8	-21.4	5.6	-39.1
	サービス業	33.3	44.4	22.2	11.1	-4.8	15.9	-30.8
	全産業	18.4	40.4	41.1	-22.7	-23.6	0.9	-32.9



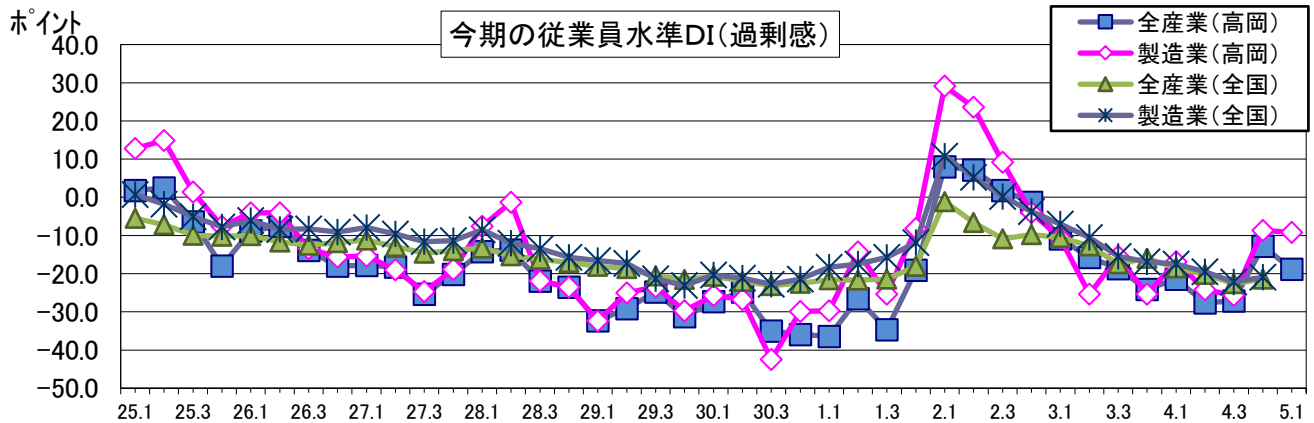
■ 4. 資金繰り(前年同期比)



資金繰り(前年同期比)の推移

	好転	悪化	DI
5.1	5.8%	13.9%	-8.0
4.4	2.1%	20.4%	-18.3
4.3	4.4%	15.6%	-11.1
4.2	5.4%	16.9%	-11.5
4.1	2.7%	21.2%	-18.5
3.4	6.7%	18.0%	-11.3
3.3	11.3%	19.4%	-8.1
3.2	12.7%	11.5%	1.2
3.1	5.7%	22.9%	-17.2

■ 5. 今期の従業員水準(今期の過剰感)



従業員水準(過剰感)の推移

(ポイント)

	R3.2	R3.3	R3.4	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R5.1
建設業	-47.4	-52.9	-44.4	-70.6	-62.5	-53.8	-42.9	-46.2
製造業	-25.4	-15.5	-25.4	-16.9	-24.2	-25.7	-8.7	-9.2
卸売業	16.7	-3.8	0.0	-7.4	0.0	-12.0	8.3	0.0
小売業	5.6	-13.3	-11.1	-13.3	-26.7	-31.6	-23.1	-33.3
サービス業	-20.0	-23.8	-40.0	-19.0	-40.0	-29.4	-23.8	-44.4
全産業	-15.7	-18.7	-24.1	-21.4	-27.6	-27.1	-12.8	-18.8

※数字が小さいほど不足感が強い

■ 6. 直面している経営上の問題(各業種の回答上位)

複数回答

建設業	①材料価格の上昇	27.8%
	②従業員の確保難	16.7%
	③熟練技術者の確保難	11.1%
製造業	①原材料価格の上昇	23.8%
	②従業員の確保難	13.8%
	②需要の停滞	13.3%
卸売業	①仕入単価の上昇	25.0%
	②需要の停滞	16.7%
	③従業員の確保難	11.7%
小売業	①消費者ニーズの変化への対応	15.4%
	①人件費以外の経費の増加	15.4%
	①需要の停滞	15.4%
サービス業	①人件費の増加	19.1%
	②利用者ニーズの変化への対応	17.0%
	②材料等仕入単価の上昇	17.0%